

採用情報

採用予定試験区分とよくある質問の回答です。
試験情報の詳細は人事院HPをご確認ください。

採用試験区分

総合職

(院卒者試験)

農業科学・水産、人間科学、デジタル、工学、数理科学・物理・地球科学、
化学・生物・薬学

(大卒程度試験)

農業科学・水産、教養、人間科学、デジタル、工学、数理科学・物理・地球科学、
化学・生物・薬学

一般職(行政系、工学系)

(大卒程度試験)

行政、物理、デジタル・電気・電子、機械、土木、建築

(高卒者試験)

行政、技術(関東甲信越)、農業土木、林業

一般職相当(水産系)

(大卒程度試験)

水産

採用FAQ

Q 総合職と一般職の違いは何ですか？

A 総合職は主に本庁を中心に政策の企画・立案を行う機会が多いのに対して、一般職では、政策の履行に向けた実務に従事する機会が多いです。総合職・一般職ともにその人の希望や適性等に基づき、様々な業務経験を積むことができます。

Q 水産の知識がなくても大丈夫ですか？

A 入庁前に水産の知識がなくても大丈夫です。入庁してから先輩職員がOJT形式で指導します。また、日々の業務を通じて、知識や技術等を習得できます。学生時代に水産に触れていなかった方でも問題ありません。

Q 地方への出向頻度はどれくらいありますか？

A 職員によってその頻度は異なりますが、全国6か所の漁業調整事務所や地方公共団体等に異動する機会があります。他省庁に比べ、出先機関の数は比較的小さい方かと思います。

Q 行政や事務区分で入庁しても活躍できますか？

A もちろん活躍できます。行政・事務区分の採用者には、現場に近い立場で技術系の業務を行う者もいれば、総務や経理といった総務系の業務を担当するキャリアパスもあります。職員の適正に合わせたキャリアパスの中で、活躍することができます。



農林水産省公式YouTube
水産庁「ぎょぎょチャンネル」



採用情報はこちら



FISHERIES AGENCY 〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1(合同庁舎第1号館8階)
水産庁 TEL.03-3502-8111(代表番号)
(交通) 地下鉄霞ヶ関駅(丸ノ内線、日比谷線、千代田線)下車

豊かな海へ

FISHERIES AGENCY
水産庁
2025 入庁案内

海に“幸”あり。

日本は、周囲を海に囲まれ、古くから水産業が盛んでした。

健康で豊かな、私たちの食生活の一翼を担う水産業や漁村の発展は、

海の幸を通じて、国民生活の“幸”に大きく関わっています。

私たちとともに持続可能な水産業の未来を創っていきませんか？

水産庁 組織と仕事

水産庁では水産資源の管理や漁業の振興、水産物の安定供給を確保するための施策を総合的に推進しています。漁業者の支援、資源管理の強化、漁港・漁場の整備、水産物の流通促進など幅広い分野に対応しながら、国際的な資源管理への参画や漁業取締り、環境保全にも取り組み、持続可能な水産業の実現を目指しています。



漁業調整事務所の管轄区域



入庁の決め手は？

海が好きで、海に関係する仕事に就きたいと思っていました。また、日本に足りないものとして挙げられることの多い、食料やエネルギーについて漠然と関心があったことから、海由来の食料資源である水産物の増産に貢献できる水産庁に入りたいと考えました。

入庁前と入庁後のギャップは？

堅い職場であることや、日付が変わるまで残業しているイメージがありましたが、どちらも予想に反して異なりました。また、イメージする公務員とは異なり、闊達な方が多く、自分自身としては動きやすいと感じています。

水産庁の魅力は？

水産政策に関する事項について、立場の違う関係者間で意見が異なることも多いですが、それらの意見を取りまとめ、将来的に日本にとってより利益の多い選択となるよう、尽力できる機会があることは魅力だと思います。

小野 眞太郎

漁獲監視官資源管理推進室
総合職・水産系



令和6年度の新規採用職員に聞いてみました。

入庁の決め手は？

私が水産庁に入庁した理由は、やはり、魚が好きだったという点につきます。大学時代から、趣味の釣りや、朝市などで買う魚が好きでした。興味があることに仕事で関われるということが、一番の決め手となりました。

入庁前と入庁後のギャップは？

入庁前の私は、働き始めたら、残業も多く、今までしていた趣味もなかなか出来なくなるのかと思っていましたが、実際のところ、遅くまで残ることもあるものの、全体的にバランスよく仕事することが出来る環境となっていて、正直驚いています！

水産庁の魅力は？

自分が現在所属している部署では、「海業」という漁港や漁村の魅力を活かした地域振興に取り組んでいます。自身の仕事を通じて、様々な地域の盛り上がりを感じて、知ることが出来るのは大きな魅力だと思います。

熊谷 和恕

漁港漁場整備部計画・海業政策課
一般職・事務系



入庁の決め手は？

大学時代は土木専攻で水産の知識はほぼゼロだったため、業務を通じて新たな発見ができると思い入庁しました。また工学系職員は、キャリアの大半が在京勤務であることも、将来設計する上で重要なポイントでした。

入庁前と入庁後のギャップは？

テレワークや勤務時間変更等、その人に合った働き方を選択できることです。30～40代の課長補佐級の方でも、ご自身の都合に合わせてテレワークや時間休を活用しているため、私たち若手職員も積極的に取り入れることができます。

水産庁の魅力は？

他に比べて小規模な省庁であることから、部課を横断したつながりを大切にしていると感じます。こういう背景もあってか、困った時に親身に相談に乗ってくれる心優しい方が多い印象です。

大橋 健

漁港漁場整備部事業課
一般職・工学系



入庁の決め手は？

より大きな規模で幅広く水産に携われることが、海や水生生物が好きな私にとって大きな決め手となりました。また、概ね2年の異動でキャリアを重ねることにあらゆる業務を経験できることも決め手の一つです。

入庁前と入庁後のギャップは？

課によって業務が大きく異なることが意外でした。九州漁業調整事務所内だけでもデスクワークがメインの課、船に乗る課、浜への出張が多い課など様々です。課の違う同期の話は勉強になりますし、今も知らないことが多く、驚くこともあります。

水産庁の魅力は？

大きな規模で水産に携わり、多様な業務を経験できるのが魅力です。特に、漁業調整事務所は漁業者と会議等を通じて交流できる機会も多く、現場の声を聴き広い視野を持って水産を考えていくことができます。

石田 真菜

九州漁業調整事務所資源課
一般職・水産系



入庁の決め手は？

日本は周囲を海に囲まれ、豊かな海の恩恵を受けている一方、その長い海岸線のため、絶え間なく自然の脅威を受けています。漁業地域を災害に強くし、漁業地域の整備や改善によって水産業の発展及び人と水辺との親和性向上に取り組みたいと考えました。

入庁前と入庁後のギャップは？

採用担当や面接を担当してくださった方の印象から想像していましたが、それ以上に職場の雰囲気がよく、とても賑やかで優しいばかりです。入庁以後、人間関係に困ることはありませんでした。

水産庁の魅力は？

海洋立国日本において水産業の発展・維持は、食料安全保障の観点だけでなく、日本の海岸線を守るという観点においても重要です。漁業地域を災害に強くし漁業に携わる人々の生活や財産を守ることができるのは魅力だと思います。

三井 洋平

漁港漁場整備部防災漁村課
総合職・工学系

ワークライフバランス

安井 一敬

水産庁漁政部漁政課会計班会計第1係長
採用年／2005年10月
試験区分／Ⅱ種・事務系

安井 萌

水産庁資源管理部国際課総括班調整係長
採用年／2006年4月
試験区分／Ⅲ種・事務系



ワークライフバランスについて

女性はもちろん男性も育児に伴う休暇を積極的にとれる職場です。仕事の調整は必要ですが、保育園、小学校のイベントや家族に何かあったときすぐ駆け付けられるよう普段から上司、同僚、配偶者とコミュニケーションを大切にしています。配偶者と同じ職場なので、お互いの仕事の状況を把握しやすいのも仕事と家庭を両立できているところかなと思います。

国家公務員をめざす学生へのメッセージ

仕事はもちろん大変ですが、水産庁は仕事についても、育児についても周りの方々に相談すると親身になってアドバイスをくださったり、助けてくださったりする職場だと思います。皆さんも安心して仲間になってみませんか。



ぜひ水産庁と一緒に働いてみませんか!!!

源川 明日香

水産庁漁政部漁政課人事班
秘書係
一般職事務系

- H28.4 入庁
- H28.4 水産庁漁政部漁政課経理班
- H31.4 農林水産省大臣官房文書課国会班
- R 3.7 水産庁増殖推進部研究指導課資源増殖技術班
- R 4.6 水産庁増殖推進部研究指導課総括班
- R 6.4 水産庁漁政部漁政課人事班

♡ 仕事の内容とやりがい

私の仕事は、水産庁幹部の補佐役としてスケジュール管理の事務的な業務、来客対応などを担当し、業務に集中していただけるよう、裏でさまざまなサポートを行います。水産庁長官をはじめとする幹部職員は、日頃から重要な業務を多く背負っており、さらには国会対応などを行っています。そのため秘書として、決められた仕事をこなすことはもちろんのこと、自分が担当する幹部のニーズに応じて、臨機応変かつ気の利いた対応が求められます。水産庁長官の近くで働く責任は大きいですが、それだけ大事な役割を担っており、結果的に私の業務が幹部の力になるのであればと、日々やりがいを感じながら業務を行っています！

📷 印象に残った仕事

現在の業務に異動になることを上司から伝えられた時は、まさか自分が幹部の秘書に携わるとは思ってもおらず、もちろん秘書の経験など0で不安に思うこともありましたが、日々の業務の中で必要な知識などを身につけるとともに、過去に経験した国会業務の知識を現在の秘書業務でも活かしています。秘書として多くの水産庁職員と関わりますが、今の業務経験もこれから携わる業務に活かせるよう、日々取り組んでいます。

✉ 水産庁を目指す方へメッセージ

入庁前の私はなんとなく水産に興味があって官庁訪問に行きましたが、水産の知識など全くなく、しいて言えば「海好き」「魚食べるの好き」程度でした。入庁後に知識の豊富な同期や先輩の話を聞きながら、徐々に業務を通じて水産庁がどんなことを行っているのか視野を広げています。私のように知識がなくても、周りが丁寧に教えてくれる環境があるので、少しでも興味があればぜひ官庁訪問に！そして一緒に働いてみませんか！



複雑かつ予見できない水産物流通の今と未来を考える日々。

中島 絵里子

水産庁漁政部加工流通課企画調査班
課長補佐
総合職水産系

- H23. 4 民間水産会社勤務(輸入凍魚の営業)
- H27.10 水産庁入庁 漁港漁場整備部防災漁村課
- H29. 4 漁政部漁政課
- H30. 4 長崎県庁出向
- R 3. 4 農林水産省みどりの食料システム戦略グループ
- R 5. 4 資源管理部漁業取締課外国漁船対策室
- R 6. 2 漁政部加工流通課

♡ 仕事の内容とやりがい

今の業務は水産物の流通のうち、特に市場の流通、価格形成、人手不足に関する分析・企画立案がメインですが、これらは水産庁でもあまり体系的、網羅的なデータがない分野です。市場の卸・仲卸業者、物流業者様等に話を伺い、魚が水揚げされた後の水産物の流通や取引実態を紐解くことは、非常に面白味を感じる仕事です。特に、魚種・漁法や地域によって実情が様々である中、分析を進めていくと一定の条件設定により共通した傾向が見えてきたりするので、これらの分析結果をもとに、現在あるいは中長期的に現場で何が求められるのか、事業や施策を考えることはやりがいを感じます。また、私は現在Open政策ラボ(各テーマに沿って有志が集って活動。業務時間のうち2割を上限に活動可能)に参加し、米粉の営業活動を行っています。全く違う業界のお話を聞く機会が得られ、自身の業務においても重要な示唆をいただくことがあり、本業に煮詰まった時などはこちらの活動を通じて刺激をもらっています。

📷 印象に残った仕事

振り返るといずれの業務も印象深く(いい意味で)、これ!というものが挙げられません。

✉ 水産庁を目指す方へメッセージ

私は民間企業で輸入凍魚の営業をしていましたが、各国で漁獲枠の制限が強まり、仕入れられる魚が減っていくことを肌で感じ、何とか魚自体を増やせないかと考え転職しました。海洋環境の変化等による漁獲量の減少、人手不足、生産コストの上昇など、漁業や水産流通業を取り巻く環境は厳しい状況が続き、まだ具体的に何もできていないなど無力感を感じる時もありますが、水産庁は一つ一つの課題に対し様々な手法でアプローチをしたり、企画を考えることが可能な環境です。また、民間ではなかなか踏み入れられない、スパンが長く利益と直結しない業務でも、行政だからこそ向き合うことができます。今は様々な課題があるからこそ、様々なバックボーンを持つ方とともに、どのような解決策が考えられるのか、その仕組みづくりと一緒にできたら嬉しいです。

VOICE
03



都道府県の担当者とのオンライン会議の様子



整備の舞台となる漁港

漁港を通じて水産業を繋ぐ

白谷 将基

水産庁漁港漁場整備部事業課企画班
企画係長
総合職工学系

H30.4 入庁
H30.4 水産庁漁港漁場整備部計画課 係員
R 4.4 地方自治体出向(鎌倉市役所)
R 6.4 水産庁漁港漁場整備部整備課企画係長
R 6.10 水産庁漁港漁場整備部事業課企画係長

♡ 仕事の内容とやりがい

日本全国には約2,800の漁港が存在しており、その中には整備されてから50年以上経過しているところも少なくありません。それらの漁港をこれからも利用していけるよう、水産庁では漁港施設の長寿命化対策を推進しており、私はその対策に係る事業を担当しています。業務としては、整備に関する事業計画の審査や、事業主体となる地方公共団体が円滑に実施できるよう技術的助言を行っています。インフラの維持管理に関する仕事で、地道な仕事ではありますが、漁業を営むために必要不可欠な漁港を守っていくため、自分の専門性を活かしながら働けていることを嬉しく思っています。

📷 印象に残った仕事

全国の漁港の中で、水産業の振興上特に重要な漁港を特定第3種漁港と言いますが、その漁港における整備事業計画は国が策定することとなっており、その策定業務に関わったことが印象に残っています。やはり日本有数の漁港における整備なので、規模がとても大きく、社会的な影響も大きい仕事でした。その漁港は現在も整備中ではありますが、着々と整備が進む様子を見聞きし、自分の仕事が形になる喜びを感じています。

✉ 水産庁を目指す方へメッセージ

工学系の学生さんからすると水産庁で働くことはピンとこないかもしれませんが、水産庁は工学系の専門性を活かしながら働くことができる職場です。それと同時に、新しい分野に挑戦できる職場でもあると思っています。例えば、近年、漁村地域のにぎわい創出に向け、地域資源の価値や魅力を活かした海業の推進を図っており、工学だけに留まらない様々な知識・経験を活かすことができます。こうした海業を始め色んなことに取組み、多方面から社会に貢献できる仕事の水産庁ならではの魅力です。何か少しでも興味を持ったことがあれば、是非一度業務説明を聞きにお越しください。

VOICE
04



カニかご船出漁式の様子



水揚検査の様子

海の声聞き、漁業の未来を守る

江頭 舞鈴

境港漁業調整事務所資源課
許可係
一般職水産系

R 5.4 入庁
境港漁業調整事務所資源課 係員

🕒 ある日のスケジュール

8:30 出勤、メール確認
9:00 申請書類の審査、起案
11:00 漁獲データ等の確認
12:00 休憩(隣の直売センターへ鮮魚類を見に行くことも...)
13:00 大臣許可漁業に関するデータ入力
14:00 資源管理に関する会議
16:00 会議概要作成
17:15 業務終了

🕒 検査実施日のスケジュール

5:30 出勤、検査の準備
6:00 漁獲物の水揚検査のため市場へ(事務所から徒歩2分)
9:30 帰所、検査結果のとりまとめ
11:00 許認可関係の申請書類の審査、起案
12:00 休憩
13:00 漁獲データ等の確認、大臣許可漁業に関するデータ入力
14:15 業務終了

♡ 仕事の内容とやりがい

大臣許可漁業等の許認可業務や資源管理業務を担当しています。許認可業務では、漁業者の船の変更や許可承継の申請手続きを行っており、操業スケジュールを把握することで正確かつ迅速な事務処理を行うように心がけています。資源管理業務では、漁獲データの確認や水揚げされた漁獲物の検査等を行っています。特に、検査がある日は早朝からの勤務のため、体力的に大変ですが、限りある水産資源の持続的な利用を実現するためには欠かせない仕事であり、執務室の業務以上に緊張感をもって臨んでいます。自身が行っているこれらの業務が漁業者の活動を支え、水産資源の保護に繋がっていることに誇りを感じます。また、現場の漁業者との信頼関係を築きながら仕事を進めることで、社会に貢献できている実感を得ることが出来ます。

📷 印象に残った仕事

漁業取締船での取締業務が印象に残っています。外国漁船の違法操業を防ぐため、日本周辺海域の監視を行いました。立冬の荒れた日本海での洋上業務は慣れないことの連続で、その全てが新鮮に感じました。船内では24時間の監視体制が当たり前のように構築されており、漁業秩序や安全な操業環境の維持には多大な労力が必要だと実感しました。また、日本の海の漁業秩序を守る現場の最前線を目の当たりにし、漁業取締りの重要な役割を改めて認識する貴重な経験となりました。

✉ 水産庁を目指す方へメッセージ

漁業調整事務所では海や魚、漁船など水産業の要素をより肌で感じながら働くことができます。特に境港は現場との距離が近く、漁業者や市場関係者との交流の機会も豊富にあり、会議や日常の会話の中から多くの学びを得ることができます。さらに、職場の風通しが良く、若い世代も働きやすい環境が整っています。水産業に興味のある方はもちろん、特別な興味をお持ちでない方でも、ぜひ就職先の一つとして検討いただければと思います。何か少しでも興味を持ったことがあれば、是非一度業務説明を聞きにお越しください。

出向中の職員の声



森田 博之

在アメリカ合衆国
日本国大使館一等書記官
採用年／平成21年
総合職水産系

在米国大使館に「水産アタッシェ(担当官)」として派遣されています。業務内容は水産に関することであれば何でもです。米国政府の国際交渉担当官と真剣な意見交換をすることもあれば、水産物の輸出促進のためにハッピーを着てPR活動することもあります。個人の裁量が大きく、本庁勤務で蓄えた知識・経験を存分に活かせることにやりがいを感じます。現地情勢調査(旅行)も在外勤務の醍醐味であることは言うまでもありません。



藤原 孝浩

石川県農林水産部
次長兼水産課長
採用年／平成23年
総合職水産系

石川県で水産関係業務全般を統括しています。令和6年元日の能登半島地震により9割の港で被害があり、地盤隆起という被害もありました。こうした事態で大切なのは多くの機関・人との連携です。日頃から県漁協・漁業者と良好な関係を構築し、水産庁との太いパイプがあることが大きな武器となりました。発災から1年経過し、すべての主要港で操業再開しましたが、いまだ復興途上です。1日も早く復旧・復興し、漁業者に前を向いて力強く歩んでいただくことを目指しています。

出向にきている職員の声



大竹 悠

水産庁加工流通課課長補佐
(財務省から出向中)
採用年／平成28年

前職での業務

前職は、財務省の主税局や理財局で税や国債といった歳入業務に従事しており、特に主税局時代では、感染症パンデミックの中、総務課係長として、国会や特例法の取りまとめなど、自席で指揮をとることが仕事でした。

現在の業務

現在は打って変わって、ALPS処理水の海洋放出に係る対策や水産流通適正化制度の運用、輸出振興や時には人権問題など、多様な政策課題に対し、国内の漁業者から海外の交渉官まで多岐にわたる人物と、現場に出向いて調整を行っています。

外から見た水産庁の印象

実は昔、国税局で調査官や査察官で現場の取締り経験はあったのですが、水産庁が特殊なところは、規制と振興を同時に行わなければいけないところです。こんな省庁はないです。これが中々頭を悩ませます。

水産庁を目指す方へメッセージ

水産は一見狭い世界に感じますが、その政策課題は排他的経済水域をはるかに超えており、皆様が一歩出航する決意さえ持てば、獲物は大きいと思います。一介の釣り人のように根気よく、魚くさく仕事ができる人は大歓迎!と思います。



海業マスコットキャラクター

海業を推進し漁港の魅力を伝えるため、「海業親善大使」をはじめ3体のマスコットキャラクターが新たに誕生しました。

左から うみにゃーご 〜漁港の案内人〜
ぎょっこん 〜海業親善大使〜
うみーぎょ 〜海業の妖精〜



さかなの日

日本の水産物の消費量が長期的に減少傾向にある中、水産物の消費拡大に向けた官民の取組を推進するため、毎月3〜7日を「さかなの日」とし、11月3〜7日は「いいさかなの日」として、水産物の消費拡大に向けた活動の強化週間と位置付けています。

いいクン(さかなの日ロゴマーク)

研修制度

水産庁では、入庁後の職員が実務経験を積みながらスキルアップできるよう、多様な研修プログラムを用意しています。



漁村研修



現場を知ることが 職員の第一歩

- 水産庁や農林水産省が企画・実施する研修
- 入庁2年目以降の職員が対象
- 2〜4週間、漁村・農村で受入先の漁家等にての実地研修

行政研修



公務員としての 使命感や資質を向上

- 人事院が企画・実施
- 採用区分や役職に応じた研修を実施
- 公務員としての資質向上を目指す

在外・国内研究員制度



高度な専門知識を習得し、 行政の最前線へ

- 人事院が企画・実施
- 国内外の修士・博士課程へ派遣
- 在外は米国・英国、仏など
- 複雑化する行政に対応するための専門スキルを習得

スキルアップセミナー



幅広い分野の知識を 学べる機会を提供

- 農林水産省や他府省庁が企画・実施
- 農林水産業の新技术や研究、先進サービスを学ぶ
- 法務・会計・広報・語学研修なども定期的に開催

キャリアパス

水産庁では、幅広い業務フィールドの中で、多様なキャリアパスを描くことが可能です。数年ごとの異動を通じて、さまざまな経験を積みながらキャリアアップを目指します。

- ▶4つの部・30を超える課室で多様な業務を経験
- ▶他省庁、在外公館、関連法人などへの出向も可能
- ▶数年ごとの異動で幅広い視点と専門性を習得

